令和5年度　藤井寺市市民文化財講座　2023(令和5)年12月2日

「松 原 市 の 道」

“長尾街道探訪”

芝田和也(松原市教育委員会)

古代の河内は、淀川、大和川などからの堆積により、海から肥沃な大地へとその姿を変貌させ、河内平野には、幾代にもわたる人々の活動歴史が数多く埋蔵されています。
大阪平野南部地帯の台地や丘陵地と間に広がる沖積地には数多くの古墳や碁盤の目のような耕作地とともに様々な道が縦横に通じています。これらの道について考古・歴史地理・文献などから様々な検討が行われてきました。
今回は、古代から現在まで続く、交通の要衝地松原での近年の調査などを踏まえて市内を東西に走る長尾街道の様相を探ってみたいと思います。

図1　日下雅義『古代景観の復元』1991

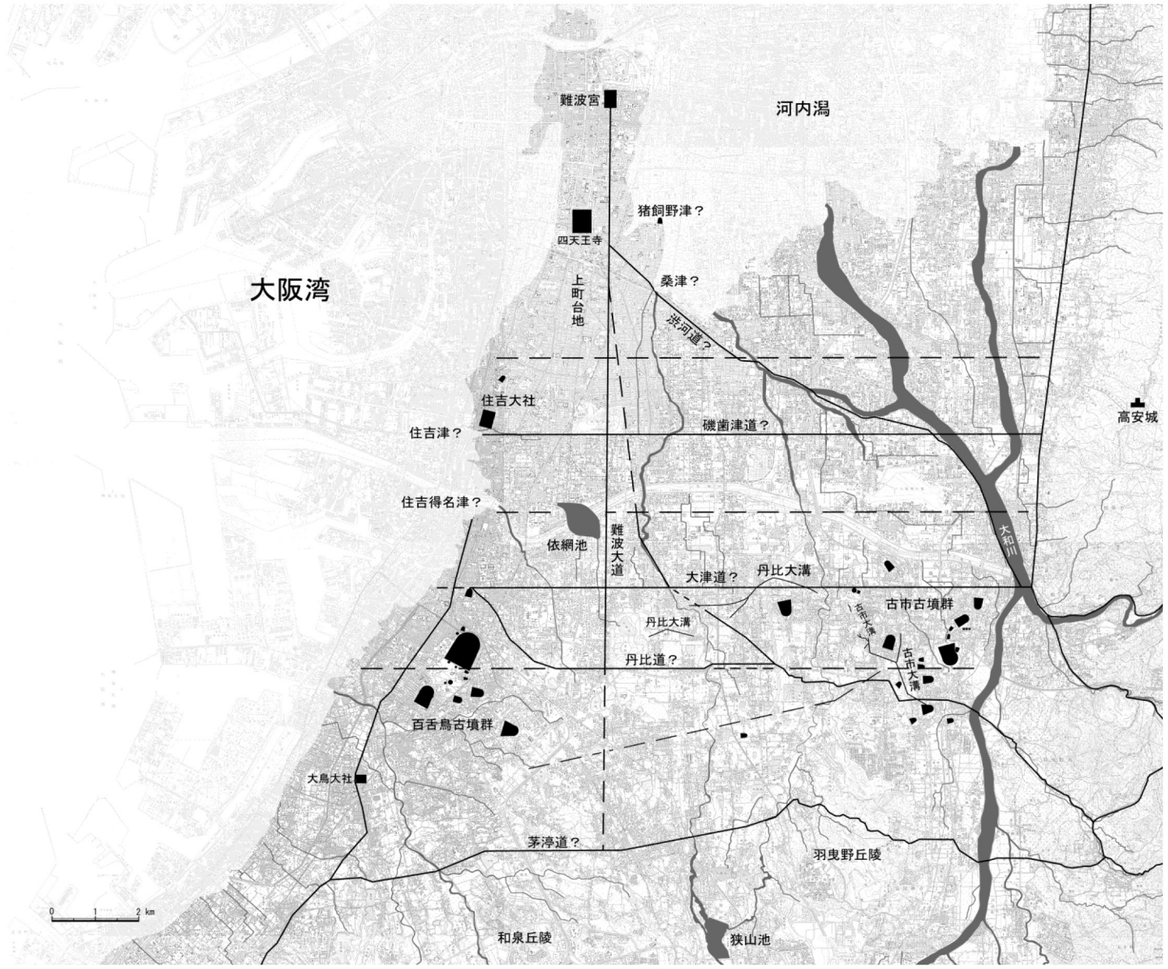


図2　古代の大阪南部の景観

Ⅰ. 文献・歴史地理学からの考察
1.「古事記」「日本書紀」
・難波からの“大道”
・天武天皇：壬申の乱に見る「丹比・大津両道」

Ⅱ. 考古学からの考察
1. 長尾街道と沿線の発掘調査
道路側溝の発見
・上田町遺跡－長尾街道沿い－試掘調査(1982・1990)　・上田町遺跡発掘調査(1988)　・上田町遺跡発掘調査(1993)
・高見の里遺跡発掘調査(1997)
主な沿線の発掘調査
・一津屋町遺跡発掘調査(1988)・清水遺跡発掘調査(1999)
2. 市内の古道関連の調査
難波大道　　・大和川今池遺跡発掘調査(1980)・斜向道(立部遺跡)
※新たな正東西方向規格道路の可能性　　・小字名「古道」・磯歯津道と長尾古道の真中間線

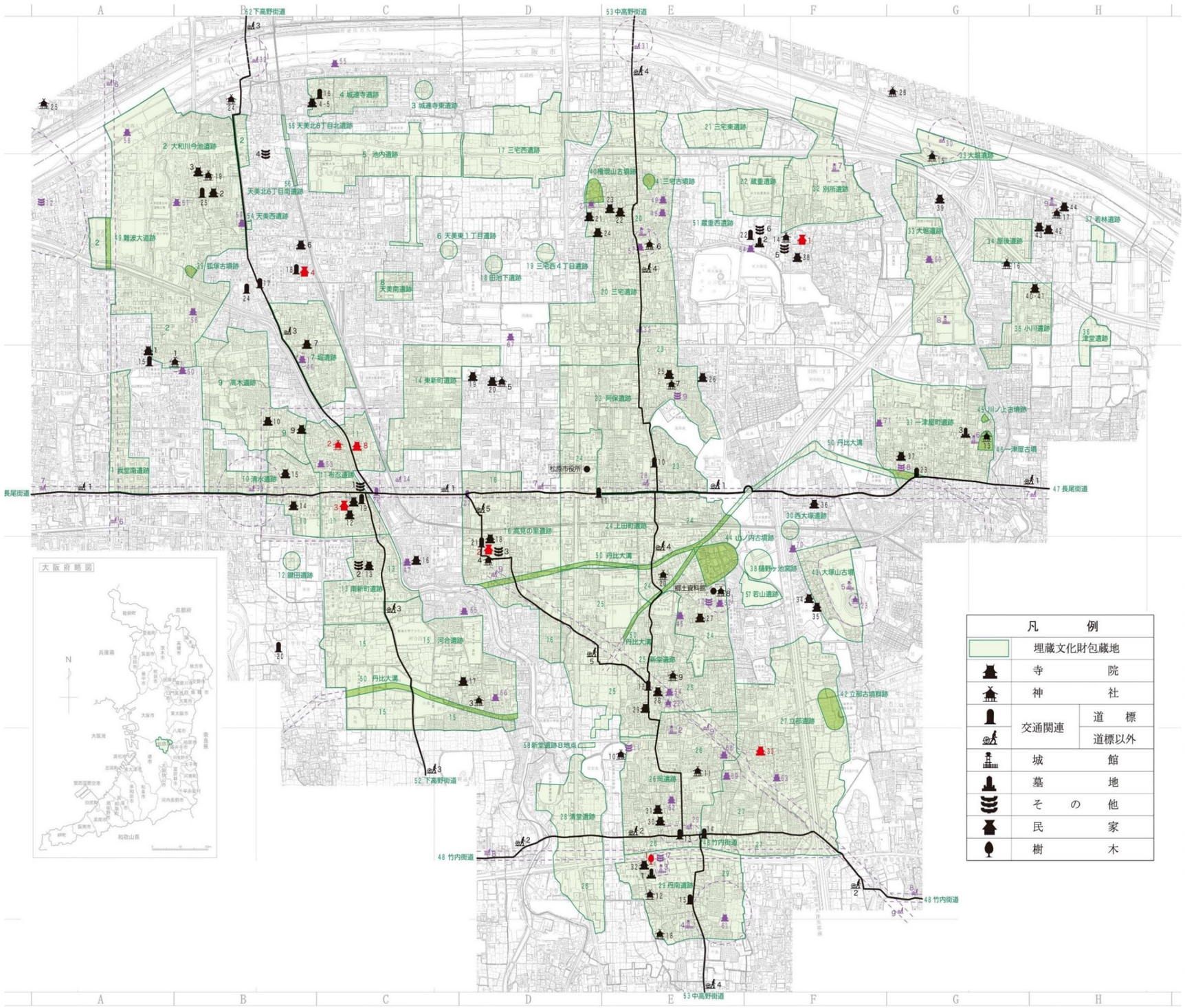


図3　『松原市文化財分布図』2017

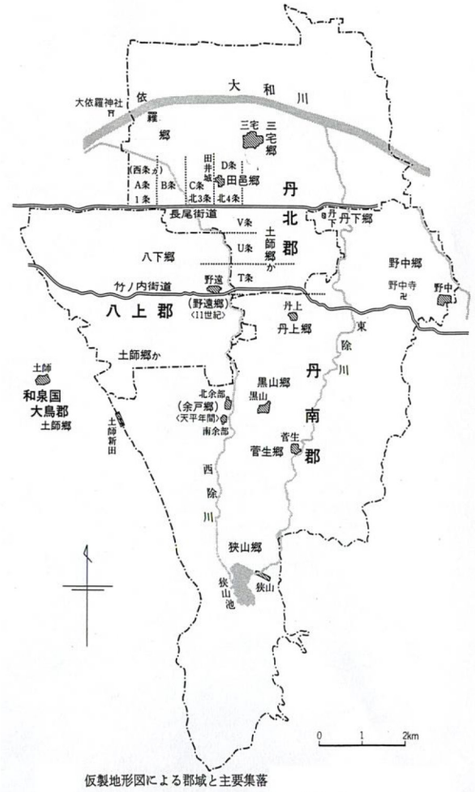


図4　丹比郡域図『松原市史』第一巻 1985

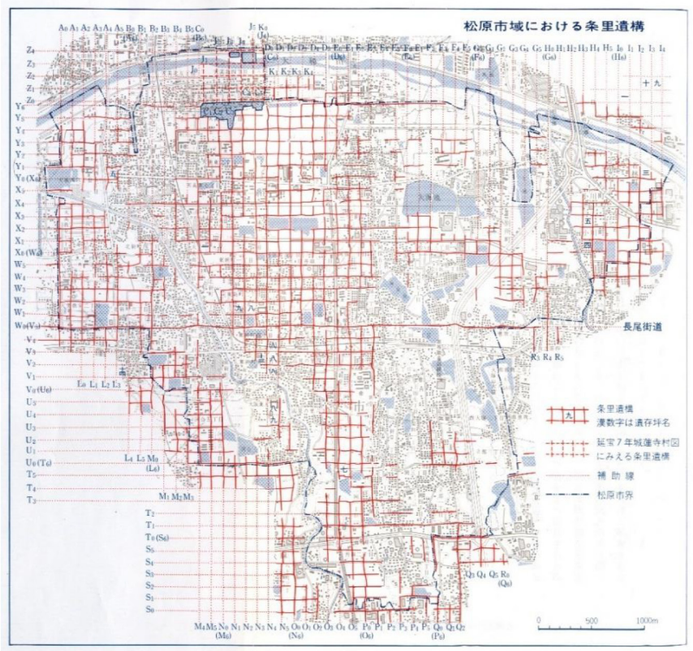


図5　松原市内条里遺構図『松原市史』第一巻 1985

表1 年 表

	時代の契機	事象・その他備考	松原の文化財
縄文			東新町遺跡(噴砂) 三宅西遺跡
弥生		57=後漢に朝貢(奴国王)・「漢倭奴国王」印授与 188=倭国大乱,邪馬台国女王・卑弥呼 239=魏に朝貢(卑弥呼)・「親魏倭王」印授与 248=卑弥呼死去,266=西晋に朝貢(壹与)	池内遺跡、高木遺跡、上田町遺跡、高木遺跡
古　　墳	伝・丹比柴籬宮(反正天皇) 推古天皇即位(592),摂政・聖徳太子	313=楽浪郡滅亡(高句麗) **大道を作る(仁徳天皇14年)** 369=七支刀授与(倭王) 421=宋に朝貢(倭王讃)・「安東将軍倭国王」号授与 443～478=宋に朝貢(倭王済・興・武) 513=五経博士・538=仏教伝来,562=任那滅亡 587=物部氏滅亡	東新町遺跡、上田町遺跡、 阿保遺跡、大和川今池遺跡 立部古墳群 大塚山古墳
飛　　鳥	大化改新(中大兄皇子=天智×蘇我入鹿) 難波に遷都(孝徳天皇) 近江大津宮遷都(天智天皇) 壬申の乱(大海人皇子=天武×大友皇子) 藤原京遷都(持統天皇) 平城京遷都(聖武天皇)	603=冠位十二階制定,604=十七条憲法制定 608=隋国　裴世清来朝(推古天皇21) **613=大道を置く(推古天皇21)** 616=狭山池下層東樋の木樋推古天皇24伐採 623=法隆寺金堂釈迦三尊像 645=難波遷都 652=難波長柄豊碕宮完成(前期難波宮) 663=白村江の戦(日本×新羅)・百済滅亡 667=近江大津宮遷都 **672=壬申の乱** 638=富本銭(天武天皇12年の銅銭か) 694=藤原京遷都 701=大宝律令制定,708=和同開珎公布	難波大道、長尾街道(大津道?)、竹内街道(丹比道?)、 大和川今池遺跡、上田町遺跡、新堂遺跡、清水遺跡、南新町遺跡、丹比大溝。東新町遺跡、堀遺跡
奈　　良	元号を天平に改元 難波京遷都(聖武天皇) 養老律令施行,聖武天皇崩御(756) 長岡京造営着手(桓武天皇) 平安京遷都(桓武天皇)	712=「古事記」成立 723=三世一身法制定 726=難波京造営開始 743=墾田永年私財法公布(荘園の開発) 744=難波京遷都 752=東大寺大仏開眼 759=唐招提寺建立(僧鑑真) 769=僧道鏡事件 787=長岡京遷都(桓武天皇) 788=延暦寺創建(最澄)	住吉道(斜向道) 蔵重遺跡、蔵重西遺跡、清水遺跡(条里)、高木遺跡(条里) 河合遺跡、阿保遺跡、堀遺跡
平　　安	遣唐使派遣中止 院政の開始(白河上皇) 太政大臣・平清盛 鎌倉幕府開幕(征夷大将軍・源頼朝)	805=天台宗(最澄),806=真言宗(空海) 866=応天門の変,摂政・藤原良房(以後藤原時代) 1016=摂政・藤原道長 1051=前九年の役,1083=後三年の役 1152=厳島神社修造(平清盛) 1158=後白河院政 1180=源頼政・以仁王・源頼朝・源義仲挙兵 1185=壇ノ浦の合戦・平氏滅亡	中・下高野街道 池内遺跡 永興寺(大林寺十一面観音立像) 立部遺跡(鋳物師)

松原市関連古道文献

日本書紀　仁徳天皇十四年条　　国史大系第一巻上

是歳、作二大道於京中一。自二南門一直指之、至二丹比邑一。又掘二大溝於感玖一。乃引二石河水一、而潤二上鈴鹿・下鈴鹿・上豊浦・下豊浦、四処郊原一、以墾之得二四万余頃之田一。故其処百姓、寛饒之無二凶年之患一。

是の歳、大道を京(難波京)の中に作る。南の門より直ちに指して、丹比邑に至る。又大溝を感玖に掘る。乃ち石河の水を引きて、上鈴鹿・下鈴鹿・上豊浦・下豊浦、四処の郊原を潤ほし、以て墾りて四万余頃の田を得たり。故、其の処の百姓、寛に饒ひて、凶年の患無し。

○仁徳天皇の時代に難波から真直に「丹比邑」に至る「大道」が作られたかどうかは疑わしいが、七世紀中葉の孝徳天皇の時代、難波長柄豊碕宮の南門から南に直進する大道があったことは事実と思われる。いま大阪市天王寺区に大道町の名があるのは、その名ごりかという。岸俊男「難波―大和古道略考」(『小葉田淳教授退官記念国史論集』)参照。「感玖」は『倭名抄』にみえる河内国石川郡紺口郷付近(南河内郡河内町・富田林市付近か)であろう。いま応神天皇陵古墳の西方、藤井寺市と羽曳野市の境界あたりに長さ千数百メートルに及ぶ大溝渠の遺構が残存しており、古市の大溝と呼ばれているが、感玖の大溝の遺跡はまだ知られていない。

日本書紀　推古天皇二十一年(六一三)十一月条　　国史大系第一巻下

冬十一月、作二掖上池・畝傍池・和珥池一。又自二難波一至二京置二大道一。

冬十一月、掖上池・畝傍池・和珥池を作る。又難波より京に至るまで、大道を置く。

○この「大道」は、難波より上町台地上を南下して丹比郡(いまの松原市付近)に至り、そこより東折して、いまの竹内街道をとり、古市を経て石川を渡り、竹内峠をこえて奈良盆地へ出、さらに東進して飛鳥に行く道をさすと考えられる。この時、皇居は飛鳥の小墾田にあった。なお、掖上・畝傍・和珥の池は、いずれも大和の池である。

日本書紀　天武天皇元年(六七二)七月条　　国史大系第一巻下

是日、坂本臣財等次二于平石野一。時聞二近江軍在二高安城一而登之。乃近江軍知二財等来一、以悉焚二税倉一、皆散亡。仍宿二城中一。会明、臨二見西方一、自二大津丹比両道一軍衆多至。顕見二旗旟一。有人曰、近江将壱伎史韓国之師也。財等自二高安城一降、以渡二衛我河一、与二韓国一戦二于河西一。財等衆少、不レ能レ距。先レ是、遣二紀臣大音一令レ守二懼坂道一。於レ是、財等退二懼坂一而居二大音之営一。

是の日(七月一日か)、坂本臣財等、平石野に次る。時に近江軍高安城に在りと聞きて、之に登る。乃ち近江の軍財等の来るを知りて、以て悉に税倉を焚き、皆散亡す。仍りて城中に宿る。会明に西方を臨み見れば、大津・丹比の両道より軍衆多く至る。顕に旗旟を見る。人有りて曰く、「近江の将壱伎史韓国の師なり」と。財等高安城より降り、以て衛我河を渡り、韓国と河の西に戦ふ。財等の衆少くして距ぐこと能はず。是より先き、紀臣大音を遣して、懼坂の道を守らしむ。是に於て、財等懼坂に退きて大音の営に居る。

○壬申の乱において大海人皇子側について大和で挙兵した大伴吹負らは飛鳥古京を占拠したのち、七月一日に乃楽(奈良)へ向けて進んだ。その途中、河内方面より敵軍が寄せてくると聞き、兵を裂いてそれに備えさせた。坂本臣財等の隊もその一つである。はじめ「平石野」に宿ろうとしたが、高安城に近江軍がいると聞き、それを追い払って高安城に宿泊し、その翌日、「大津・丹比の両道」から近江軍が攻めてくるのを認め、城を下り、「衛我河」を渡り、川の西でこの敵と戦った。しかし兵数が少なく、敵軍に圧迫され、「懼坂」に引き退いた、というのである。

「平石野」は所在不明。南河内郡白木村平石(河南町)とする説があるが、南によりすぎる。竜田・王寺町の付近であろう。「大津・丹比の両道」は、いまの長尾街道と竹内街道にあたるとする説が有力である。岸俊男「難波―大和古道略考」(『小葉田淳教授退官記念国史論集』)参照。「衛我河」は史料〔二七〕参照。飯香川とも書き、石川のことと考えられる。「懼坂」は所在地不明。柏原市国分から田辺をへて、奈良県香芝町の関屋へ至る坂であろうか。

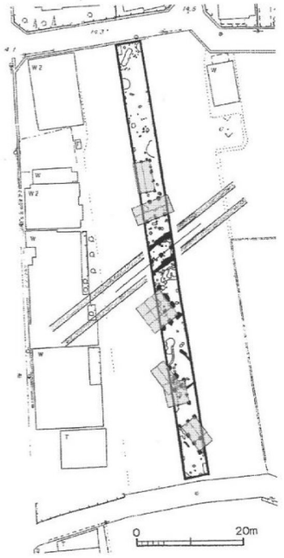
『松原市史第三巻』1978

図6　松原市内の道路遺構と沿線の調査

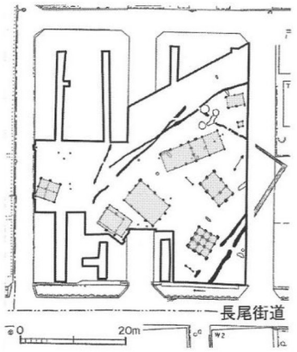
図7　一津屋町遺跡
奈良時代　井戸

『松原市遺跡発掘調査概要』1987

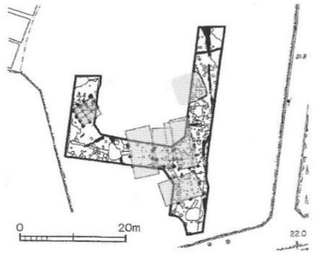
※　岡本武司（元松原市教育委員会）作図に加筆



堀遺跡(13)

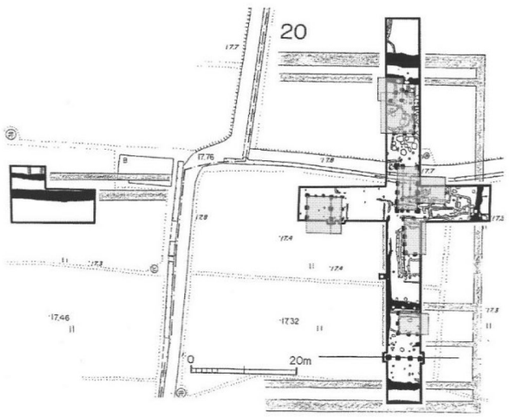


清水遺跡(14)



阿保遺跡(5)

難波大道(1)



蔵重東遺跡(15)

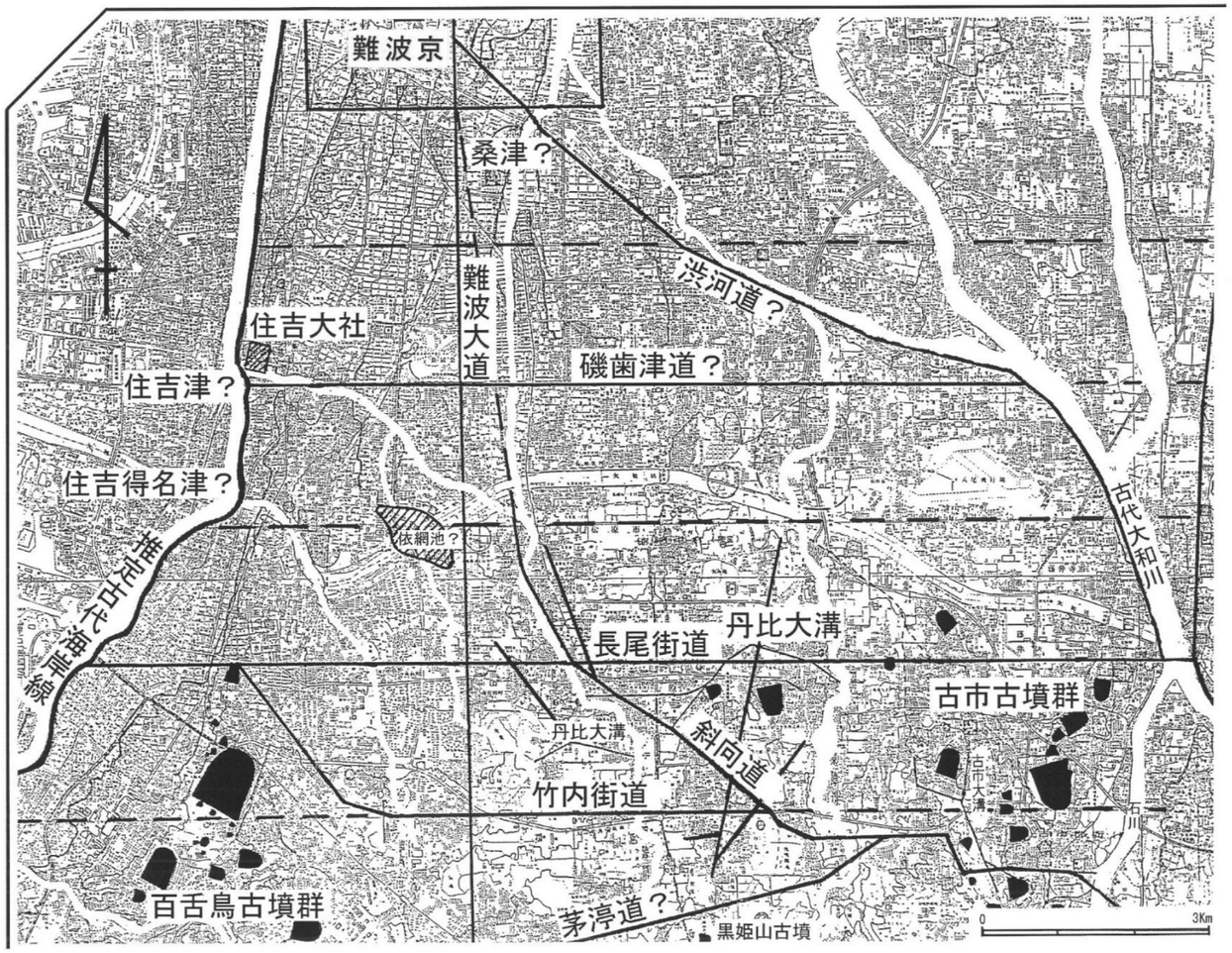
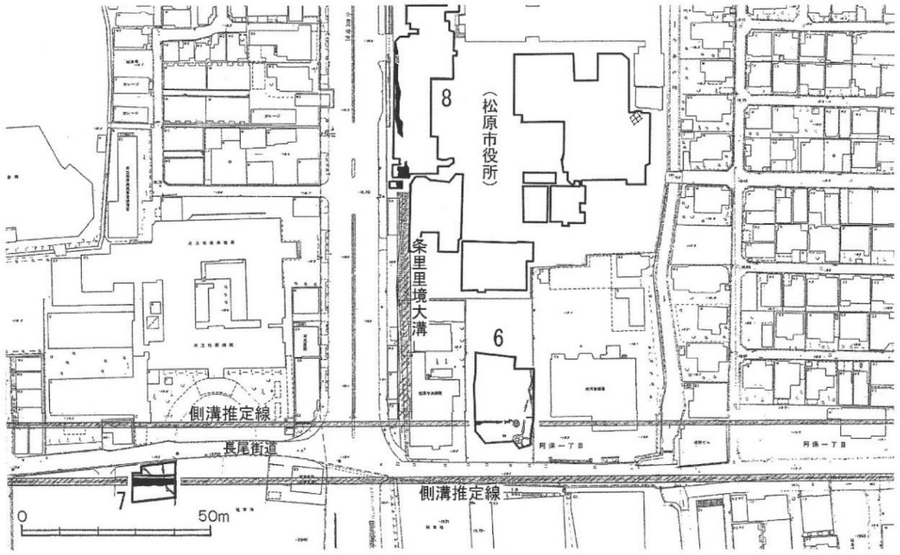
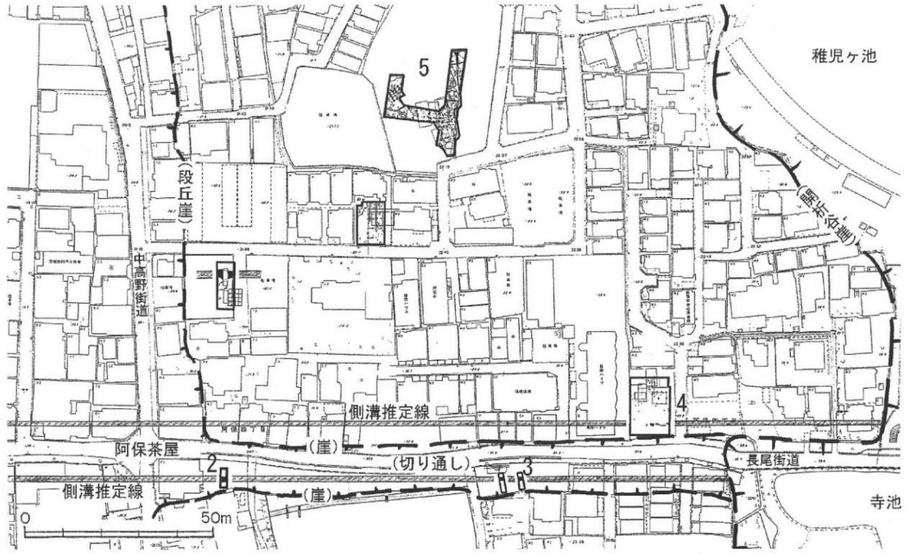


図8　道路遺構と沿線の調査

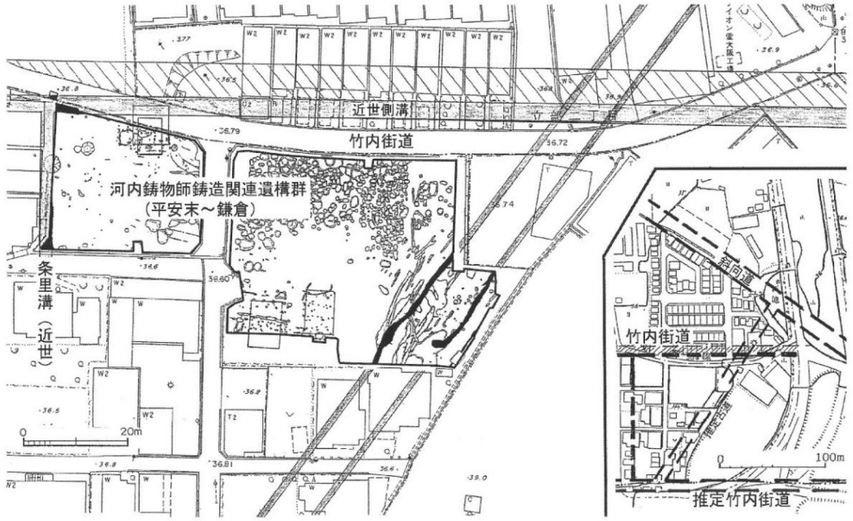
※岡本武司作図に加筆



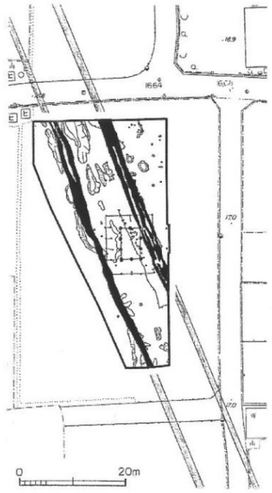
上田町遺跡(6, 7, 8)



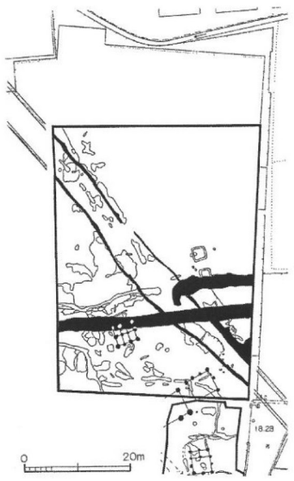
上田町遺跡(2, 3, 4), 阿保遺跡(5)



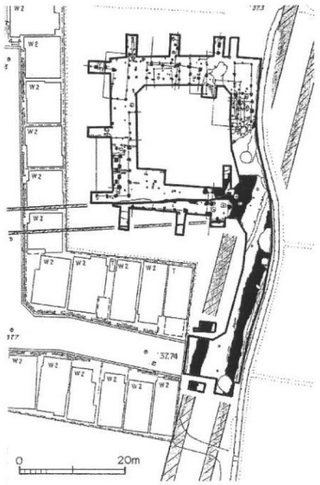
立部遺跡(9)



東新町遺跡(10)



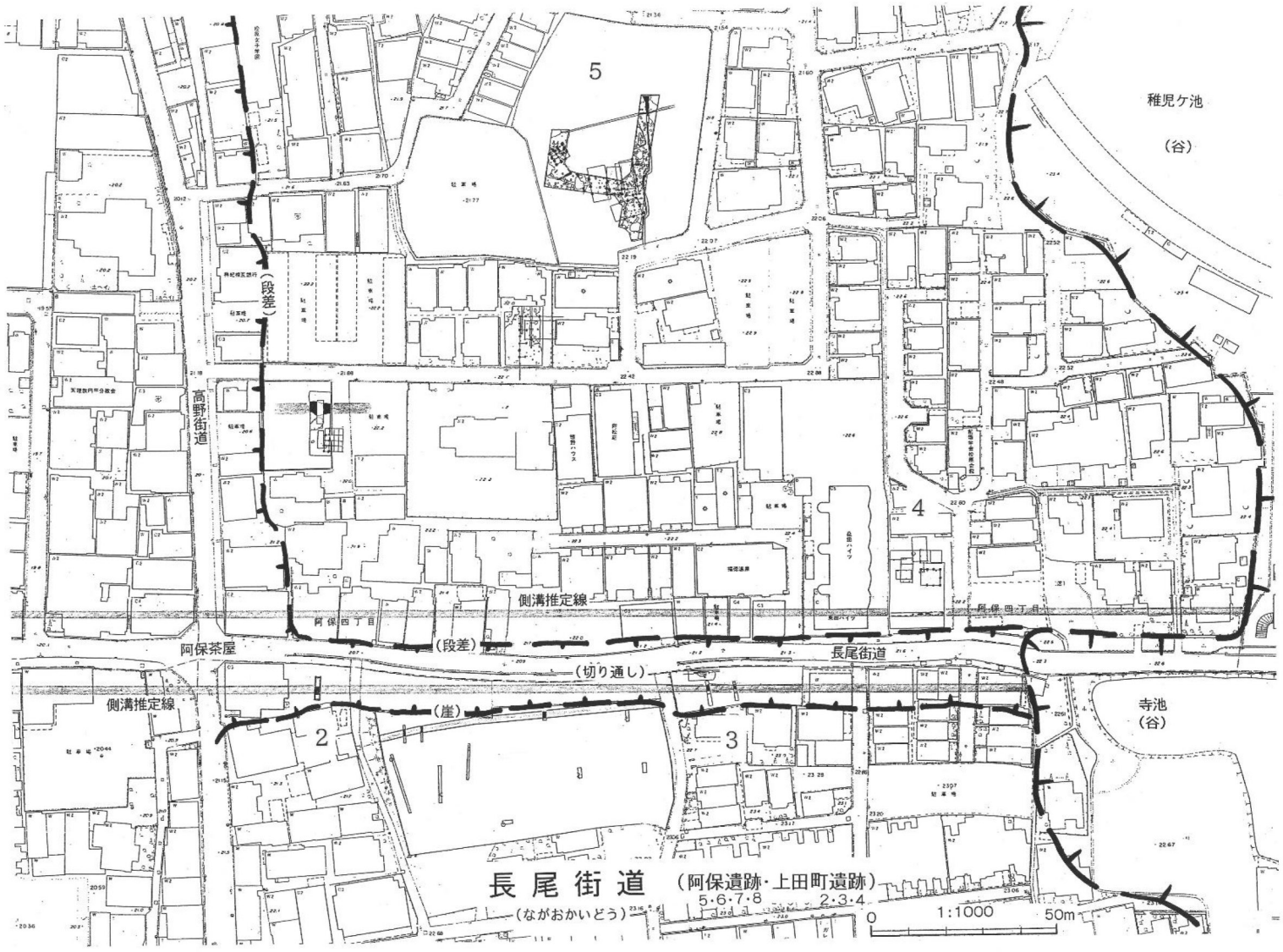
南新町遺跡(11)



丹南遺跡(12)

図9 道路遺構と沿線の調査

※ 岡本武司作図に加筆



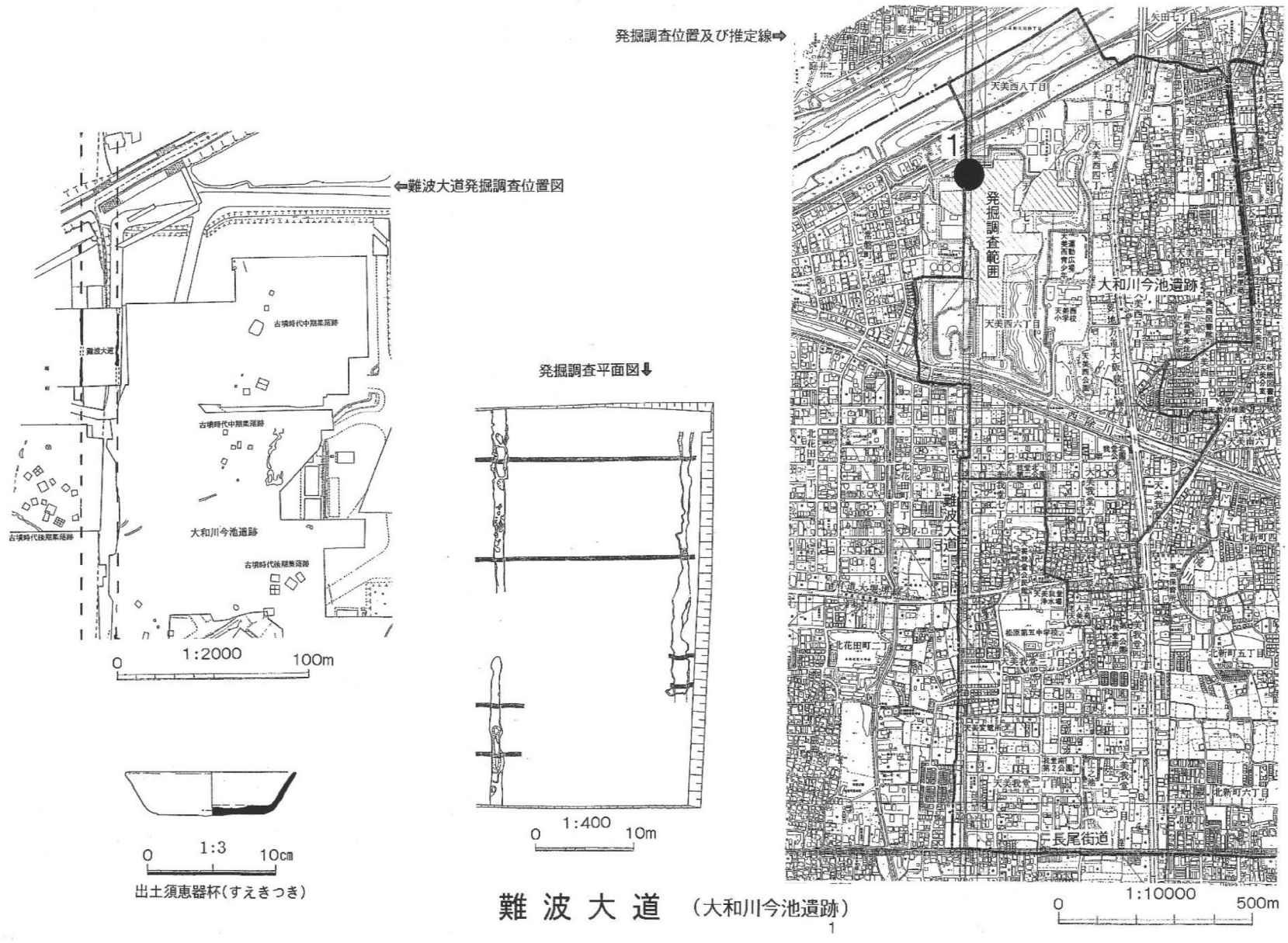


図10 道路遺構と沿線の調査

※ 岡本武司作図に加筆

松原市の歴史変遷

松原市の立地は、上町台地とその縁辺および羽曳野丘陵から派生する丘陵部並びに狭間である大阪狭山市所在の狭山池から流れる西除川下流域の沖積地とからなります。

市内での人々の活動の跡としては、1万年以上前の旧石器時代の石器が大和川今池遺跡・新堂遺跡・丹南遺跡他から出土しましたが、単発的な出土であり、藤井寺市のはさみ山遺跡の後期旧石器（3万年～1万3000年前）の住居跡や、羽曳野市の翠鳥園遺跡の2万年前の石器工房跡などの明確な活動跡は発見されていません。

集落遺跡の初現は縄文時代後期に集落が営まれていた可能性を示す縄文土器が多数出土した三宅西遺跡。

弥生時代では、畿内で最も古い時期である弥生時代前期の水田跡や集落を取り巻く環濠が発見された池内遺跡や三宅西遺跡での竪穴建物での石器づくり。新堂遺跡からは弥生後期から末の竪穴建物が確認されています。また畿内では初の発見となる北九州産の石斧が出土しました。

古墳時代は、全国第5位の規模を持つ前方後円墳の大塚山古墳や在地の豪族が葬られた円墳や方墳が築造された立部古墳群。朝鮮半島から技術が導入され焼き始められた須恵器窯の樋野ヶ池窯跡。

飛鳥時代は、616 年ごろ築造の狭山池と関連の深い市域を東西 4 kmにわたって開削した灌漑や水運に利用の丹比大溝。

丹南遺跡では役所あるいは豪族の館跡と考えられる飛鳥にいたる竹内街道に近接する場所に設けられた大規模な建物群や河合遺跡では奈良時代の官衙（役所）跡が見つかりました。

平安時代から中世にかけて全国的にその足跡をのこす丹南鋳物師の工房跡が松原から旧美原町域にかけて発見されています。

河内鋳物師の工房跡としては松原市立部に所在する立部遺跡での平安時代後期（11 世紀）の工房跡が最も古いものであると考えられています。

江戸時代には、丹南の地に譜代大名の高木氏が陣屋を置き幕末まで続きました。

そのほか現在も各村落に見られる浄土真宗や融通念仏宗などの寺院の多くが中世から近世にかけて造営され、近世の景観が戦前まで面影が色濃く残されてきました。

市内の主な遺跡

1.長尾街道・竹内街道・斜向道（分布図番号.47・48、街道番号 1・2・5）

上田町遺跡の一角、長尾街道に沿ったところで、長尾街道に並行する飛鳥時代の溝が発見されました。長尾街道自体は中近世に発達した街道ですが、元々その前身は古代において難波宮と飛鳥宮を結んでいた官道・大津道ではないかと推論されています。

長尾街道に平行する東西道の竹内街道は、難波津と飛鳥を結ぶ道として、推古 21 年（613）に整備された「大道」を起源とするわが国最古の官道であり日本遺産に認定されました。

2.大和川今池遺跡（分布図番号.2）

下水処理場の建設や大和川の堤防工事に伴って大規模な発掘調査が行われ、古墳時代の竪穴住居跡をはじめ、以降中世に至るまでの各時期の掘立柱建物群跡や中世の豪族居館跡などが発見されています。

遺跡の西端、本市と堺市との市境界付近では、難波宮南方直線大道である難波大道も発見されました。

遺跡の西隣（堺市）には日本書紀や古事記にその名が見られる依網池があったとされており、本遺跡との関連に非常に興味深いものがあります。

3.高木遺跡（分布図番号.9）

弥生時代から中世の集落遺跡です。発掘調査では、弥生時代中期から後期にかけての竪穴住居や井戸のほか、奈良時代から平安時代後期の官衙か豪族居館と思われる掘立柱建物群や井戸・溝、中世の屋敷跡と思われる掘立柱建物群や井戸とそれらを囲む溝などが発見されました。

奈良時代の条里坪境に相当する大畦畔も発見されていて、条里制のことを考えるうえでも貴重な資料となっています。

4.清水遺跡（分布図番号.10）

古墳時代から中世にかけての集落遺跡です。発掘調査では、長尾街道にまで広がる古墳時代後期の溝で囲まれた掘立柱建物群が発見されており、当時の豪族の居館と考えられます。

長尾街道の敷設時期を考えるうえで貴重な調査となっています。

5.布忍遺跡（分布図番号.11）

遺跡内では未だ大規模な発掘調査は行われておらず、詳細はよくわかっていませんが中世の大寺院と目される永興寺（ようこうじ）があったとされています。現在、本地域周辺に位置する布忍寺（東之坊）や大林寺などは、永興寺に数多くあった塔頭（たっちゅう）の一が継承されているものと言われています。

永興寺跡の中心部分と思われるところで小規模な発掘調査が行われました。寺院に直接関係する遺構は確認できませんでしたが、平安時代から中世の軒丸瓦などの出土があり、平安時代後期創建とされる永興寺の存在を裏付けました。

6.河合遺跡（分布図番号.15）

弥生時代から中世にかけての集落遺跡です。奈良時代の豪族居館か官衙と思われる大規模な掘立柱建物群と井戸、幅5mにも及ぶ大溝が発見されているほか鎌倉時代の掘立柱建物や井戸なども発見されています。

出土遺物には土師器や須恵器・瓦器などが多数あり、大溝からは土師器の胴体に人面を描いた人面墨書土器などが出土しています。

特に掘立柱建物とともに日本で最古級の秤の錘が出土したことには注目されます。建物の主は度量衡を司る役目を担っていたのでしょうか。

学校給食センターの調査では、奈良時代の大規模な掘立柱建物群が発見され、建物の大きさ・構造・配置及び出土遺物等から奈良時代の官衙（役所）跡を発見しました。

建物は、掘立柱建物といわれる地面に穴を掘りくぼめ柱を立ち上げる建物で、11棟以上が建っていたようです。中には数度に渡る建替が認められるものもあり、柱穴の一部に沈下を防ぐための礎板が敷設されるなど、これらの建物群が一時的な施設ではなく、継続的かつ丁寧に建てられていたようです。

建物の配置は、北側に梁間1間、桁行7間以上の東西建物、東側に梁間2間、桁行24間の南北建物、南側に梁間2間、桁行12間以上の東西建物を配し、官衙特有の長屋で囲むように区画しています。

調査では主屋は確認されませんでしたが、官衙の東域が発見され、北と南の東西建物の間の距離は約56メートルを測ります。

この長屋の東側では、区画溝を挟んで

梁間2間、桁行3間と梁間2間、桁行4間の2棟の倉庫が南北に並んでいたようです。

官衙の建設に伴い埋められた浅い谷の上層からは、奈良時代の複弁の軒丸瓦や瓦片が出土していることから、建物の一部に瓦が使用されていたと思われ、円形の硯や「吉」と書かれた墨書土器等の遺物も出土していて、官衙遺跡の特徴を示しています。

谷の下層からは、漆が付着した飛鳥時代の須恵器の壺が出土しており、周辺に漆を使用する工房があったことが想定され、同じく下層から飛鳥時代の丹比廃寺（堺市美原区多治井所在。創建に丹比氏が関わったと考えられています。）式の軒丸瓦が 1点出土していて、丹比郡を本拠とする有力氏族である丹比氏との関係にも注目されます。

7.新堂遺跡（分布図番号.25）

旧石器時代から中世にかけての集落遺跡です。発掘調査では縄文時代の溝、古墳時代後期の掘立柱建物・溝・橋、平安時代から鎌倉時代の掘立柱建物・井戸・溝などともに土師器・須恵器・青白磁・黒色土器などの土器類のほか縄文時代の石棒などが出土しています。

古墳時代後期の橋は、その時代性や発見された場所が古道の推定地であることから、古代交通史を考える上で貴重な資料となっています。

平安時代末期の枡が出土していることも注目されます。

8.岡遺跡（分布図番号.26）

遺跡の中央部を中高野街道が縦断し、南方部分では竹内街道が横断しています。

府営住宅の建替に伴って、大型の掘立柱建物跡とともにこしき炉の跡やふいご跡などの鋳造遺構が発見され、鋳型片や銅滓、鉄滓などが多数出土しました。中世において丹比地域に根付いていた河内鋳物師の工房跡と考えられます。

小字名で薬仙寺というところから中世の瓦が多数出土することを確認しています。広隆寺文書 に見られる中世寺院 薬泉寺（「松原荘年貢目録」享徳元年（1452）9月）の跡ではないかと推測しています。

9.立部遺跡（分布図番号.27）

縄文時代から中世にかけての集落遺跡ですが、寺院関連遺跡、河内鋳物師に関係する鋳造関連遺跡としても知られています。

古墳時代後期から飛鳥時代・奈良時代・平安時代・中世といった各時代の掘立柱建物群が発見されており、脈々と集落が営まれていたようです。

鋳物製造の際に必要な粘土を採掘した跡や鋳物製造で廃出される鉄滓を廃棄した土坑なども溶鉱炉の破片や鍋や釜の鋳型の破片や黒色土器や瓦器などとともに、竹内街道の下まで広がりあり竹内街道の敷設時期を考えるうえで貴重な調査となっています。

10.丹南遺跡（分布図番号.29）

縄文から近世にかけての集落遺跡で、江戸初期から明治維新までは丹南藩の陣屋がおかれていました。

飛鳥時代から奈良時代の官衙と思われる大規模な掘立柱建物群や井戸・道路、平安時代の井戸・溝、中世の寺院と思われる掘立柱建物群・井戸・河内鋳物師に関係する鋳造関連遺構などが発見されています。

丹南藩陣屋の一部と思われる溝や柵列も発見されました。

出土遺物も非常に多く、土師器、須恵器、青磁、瓦器、瓦、木製品、金属製品、埴輪など多種多様なものが出土しています。

元和9（1623）年丹南郡に高木主水正

正次が初代丹南藩主として就封され、明治維新まで陣屋が置かれ、立藩 400 年を迎えました。

11.一津屋町遺跡（分布図番号.31）

縄文時代から中世にかけての集落遺跡です。

奈良時代の掘立柱建物と井戸・溝などが発見されていて、当時の土師器や須恵器などが多数出土しています。

出土遺物の中には、土師器甕の胴体に人面を描いた人面墨書土器や「舩」と墨書された須恵器の蓋、「カ」の記号が刻まれた土師器の皿、斎串などがあり注目されます。

12.大堀遺跡（分布図番号.33）

遺跡内には、「大堀城」または「大堀塁」と称される中世の城砦があったと伝承されていますが、未だ発見されていません。

古墳時代の竪穴住居跡や飛鳥時代の溝跡、奈良時代の掘立柱建物跡などが発見されています。

近畿自動車道建設工事に伴う発掘調査では、奈良時代の瓦が多数出土し、今はない古代寺院「大堀廃寺」の存在が考えられるようになりました。

13.大塚山古墳（分布図番号.43）

墳丘長　335m、前方部幅　230m、後円部直径　185m、前方部高さ　4m、後円部高さ　20m、墳丘長 335 メートルは大仙陵古墳（仁徳天皇陵）、誉田御廟山古墳（応神天皇陵）、上石津ミサンザイ古墳（履中天皇陵）、備中造山古墳に次ぐ全国第5位に相当する。 墳丘の周囲には濠がめぐらされている。横穴式石室を窺わせる「ごぼ石」とよばれる石材が知られ 6 世紀後半に比定されているが、陵墓参考地のため詳細は不明です。

近年安閑天皇の未完陵と一考されています。

14.丹比大溝（分布図番号.50）

上田町遺跡で、飛鳥時代に開削されたと思われる幅約10m、深さ3mの大溝が発見されました。

大溝の目的が、付近一帯の潅漑用水路であったのか、難波から飛鳥に通じる舟運を目的とした運河であったのか議論が分かれるところですが、河合地区の大溝と併せて、古代において国家規模の大規模な土木工事が行われたようです。